

第四十七回群馬県「少年の主張」西部地区大会では、各郡市を代表する生徒の皆さんが、心に響く素晴らしい発表を披露してくれました。

この大会に至るまでには、クラス予選、学年予選、校内大会、そして市・郡大会と、いくつもの節目があったと思います。原稿を何度も読み返し、暗記し、抑揚を工夫しながら、聴く人の心に届くように磨き上げてきた努力の過程は、決して簡単に語れるものではありません。校長先生をはじめ、熱心にご指導くださった各学校の先生方にも、心より感謝申し上げます。

大会終了後、ロビーで発表者のお祖父様のご挨拶に来てくださいました。固唾を飲んで見守ったお孫さんの発表が無事に終わり、安堵されたのでしょうか。その目には感動の涙が光っていました。一つの発表の背後には、本当に多くの支えがあることを、改めて実感いたしました。

緊張や不安を乗り越え、自分の思いを言葉にして伝える中学生の皆さんの姿は、実に立派で、私自身も深い感動を覚えました。障害や特性、食料問題、個性、自分らしさ、家族への思いなど、現代社会が抱える多様なテーマに向き合い、自分の言葉で語る姿は、聴衆に大きな刺激と学びを与えてくれました。特に今年度は「自分自身」を見つめる内容が多く、自ら考え、決断し、行動する姿勢が、各発表に力強く表れていました。それはまさに、群馬県教育ビジョンが掲げる「自律した学習者」の姿そのものでした。

この素晴らしい発表の数々を文集として記録することで、これから「少年の主張」に挑戦する中学生の皆さんにとって、ヒントや刺激となり、自分の思いを言葉にする勇氣やきっかけにつながることを願っています。

一人ひとりの声が、未来をつくる力になる——そんな思いを込めて、この文集をお届けします。

最後に、本大会に参加された西部地区のすべての中学生の皆さん、熱心にご指導くださった先生方、お子様の努力を温かく見守ってくださったご家族の皆様、そして青少年育成推進員の皆様をはじめ、大会運営に携わってくださったすべての皆様に、心より御礼申し上げます。

本当にありがとうございました。